



通年コース第十・十一回開催報告「見学、林道設計」
『語りかけてくる家具』

有賀建具店さんの工房の周辺には厚さ2寸ほどに製材された板が所狭しと積んであります。また母屋や客間にはにはいるいろいろな樹種で作った家具や建具が、これも足の踏み場もないほど並んでいます。数十種の広葉樹や針葉樹を引き出しの

前板に使った、いろいろダンス、夜になつたらこのトイレよりよく、引き出し全部が廊下に出てきてそれぞれがスピン技を披露してくれそうな楽しい筆筒です。無垢材を組み合わせて作られた「いろいろドア」は、樹種名を正確に答えると、やおらドアがギーと開くのかもしれません。材料の樹種ひとつひとつに物語があり、家具や建具のそれぞれが個性を持っていて語りかけてくるようです。

二代目親方、有賀恵一さんがお父様から経営を引き継いだ40年近く前、建具の材料の多くはプリント合板や新場やチップ工場、森林組合



楽しい[いろいろダンス]

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路



工房のまわりはいたるところ板材が



神代スギや神代ケヤキのサンプル



火花を散らして埋もれ木を製材する

あるいは高校時代を過ごした山形県小国町の知り合いなどに頼んで広葉樹の丸太を集めました。しかし、建具の業界では、「木目や色をそろえる」ことが常識で、同じ建具にいろいろな樹種を木目や色、関係なく使うということがなかなか踏み切れなかったそうです。その常識を覆してくれたのが森林塾の卒業生で、現在フリーライターをされている浜田久美子さんです。とお話をしてくださいました。そういえば浜田さんの伊那のお宅はこんな楽しい家具、建具だらけ。木目や色、そして樹種さえも揃えない家具や建具を作り始めると、必然的に今まで使えずに捨てていた曲りや節、そして傷の部分さえ工夫して使えるように

なつたとのことで、木が大好きな親方にとつて、仕事がどんどん楽しくなつたという事は想像に難くありません。使う木の種類はどんな増え、現在は各種広葉樹や、針葉樹のカラマツなども含め、100種ほどの樹種を使って建具、家具を作つておられます。確かに木工に携わっている方々、何人かに聞いたことがあるのは、「ミスナラは使えるけどコナラは使えない」とか、「ハリエンジュの板は乾燥させるとプロペラ上になつてしまつてダメ」などですが、親方は時間をかけて乾燥させ、時間をかけて作ればどんな材料でも、どんな部分でも使えますよ、とおっしゃっています。

午前中は長野県森林組合連合会の伊那木材センターにお邪魔し、所長の中谷さんからお話を伺いました。この県森連土場では年間18回の市売りが開催され、昨年の実績は、競売と委託販売の合計2万4000立米でした。一昨年に比べると2割近い減少で、やや苦戦中です。この市場は地産地消の傾向が強



このキハダ、おいくらでしょうか

確かにここで見せてもらう家具や建具は死節やキズの部分も修正してうまく使つてあります。自然乾燥のために積んである板類には時期になるとクマバチが穴を開けまわると、工房の天井には今年は35個のツバメの巣が出来ました、と嬉しそうに話してくださいました。

持ち込まれた丸太は樹種や規格(等級や曲がりの有り無し、元玉かどうか、など)長さ、径級(太さ)ごとに種分けされ、積みみされます。その後、検知(長さや径級を

道設計

通年コース第11・12回
9月16・17日(金・土)
木材市場、建具店見学・林

測り記録する」という作業がおこなわれるのですが、これを所長さんを含め3人でこなしているとのこと、もちろん市売りの時にはお手伝いは頼むそうですが、なんとも大変なことですよ。

公売明細書					平成 28 年 9 月 1 6 日			伊那木材センター	
種番	樹種	長さ	末口	本数	材積	落札価格	落札者	市売り値	
		m	cm	本	立米	千円		千円	
1	ヒノキ	3.0	14 ~ 16	115	7.923	10.	Sweez 設計	10.	
2	ヒノキ	3.0	18 ~ 22	118	12.771	17.2	青木建築	13.7	
3	ヒノキ	4.0	18 ~ 22 小曲	37	9.282	15.	唐澤製材	16.5	
4	キハダ	4.0	30	1	0.36	50	青木建築	24.	
5	クリ	4.0	14 ~ 24	44	5.748	18.	isamu 木工	9.5	

さて、例によって模擬入札をしていただき、競売の雰囲気味わいました。1番種、同額札を和泉木材も入れました。本番では阿弥陀くじで決めるそうです。



そんな場面も面白そう。材の黄色いキハダは青木建築さん、2番札は3万円でしたのでなかなかの値段でぶつちぎり。年間18回おこなわれる市売りは自由に見学が出来ますし、あらかじめ10万円の保証金を積んでおけば入札にも参加できます。もちろん競り落として精算した残金は返却してくれます。ご自分でログハウスを建てるとか、ウッドデッキを丸太から作りたいなんて考へてる方、本物の競売に参加して見ませんか。

そんな場面も面白そう。材の黄色いキハダは青木建築さん、2番札は3万円でしたのでなかなかの値段でぶつちぎり。年間18回おこなわれる市売りは自由に見学が出来ますし、あらかじめ10万円の保証金を積んでおけば入札にも参加できます。もちろん競り落として精算した残金は返却してくれます。ご自分でログハウスを建てるとか、ウッドデッキを丸太から作りたいなんて考へてる方、本物の競売に参加して見ませんか。



折り畳み式木馬のような小物加工用治具

そのこの市場では珍しいものだったそうですが、元玉が4万3300円、2番が3万9800円で、岐阜県各務原の業者が落としたそうです。所長さんもちよっとびつくりとのことでした。夕方、こつあ木工舎にもお邪魔し、家具、建具を見せてもらいました。皆さんが一番興味を持ったのは、折り畳み式の木馬のような、加工用治具、大変良くできていて感心することしきり。色々な話がお聞きでき、いろいろなものを見せてもらい「へへ、なるほど!!」「目から鱗?!」の一日でした。

参加者/青木さん、小口さん、唐澤さん、木村さん、澤田さん、渋沢さん、水津さん、宮下さん
スタッフ/和泉、早川

『まず伐倒のイメージ作り』

専門コース第3回開催報告



1本の木を倒す場合、どの方向にどんな道具を使う



初心者だけど結構Good!!



一皮むけて姿勢も安定す

プロが見せる安全な元玉落とし

てどのように倒すか、まずそれを決めなくてはなりません。かかり木になる可能性はどのくらいあるのか、その場合はどう処理するのか。そんなイメージ作りはとても大切な作業です。地震や台風などの災害が発生した時、いかに事業を継続させるかを企業は問われ、BCP(ビジネス・コンテニュー・プラン)なるものを作成しています。Bを伐倒として、いかに安全にその木を倒すかのBCPを事前にイメージし、その通りできたかで、PDCAを回していくことが必要です。



みんな注目ちよっと緊張

専門コース第3回開催
9月9・10日(金・土)
参加者/雨宮さん、小池さん、田中さん、松田さん
スタッフ/川島、早川

次回以降の予定
通年コース第13・14回
10月14・15日(金・土)
枝打ち・安全衛生教育(伐木造材)
14日(金)が枝打ち。8時20分山小屋集合。ぶり縄つくりと枝打ち。15日(土)はKOA本社8時20分。1日会議室で座学です。テキスト、筆記用具、お弁当お忘れなく。最後に修了試験がありますので、できれば予習を。

リレー通信

『素人なりの林業アプローチ』
豊田 真樹子

今夏、KOA森林塾の集中コースに参加させていただきました。森林・林業について本格的に学ぶなら通年コースいいなあと思いつつも、遠方のため毎回の通学が大変なので通年コースは断念しましたが、いろいろな地域での林業に携わっている方々の話を聞くことや、理論を学ぶことは自分にとって必要なことだと思ひ、ついに決心。短期間ではありますがありますが、森林調査の方法や間伐の一通りの作業を

教わりとても勉強になりました。

また、経験豊富な講師の方々や、異なる地域から高い志を持った参加者の方々といろいろな話ができたり、一緒に勉強できたことは、今後の活動に生きてくると思いますし、自分なりに活かしていきたいと思っております。講師のみならず、一緒に作業し勉強したみなさま、本当にありがとうございます。

とりあえず私事。

現在私は地元の市民団体に入り、月に数回森林整備の活動を行っています。会員のほうが所有する山林で間伐などを行い、その間伐材等を出荷し、売上げを活動費にしながら活動をしています。市が行っている間伐材等の買取り支援制度を利用して出荷し、出荷した間伐材は市内の

バイオマス発電所用の燃料チップになっています。

市ではチェーンソーの研修やPCウインチを使用した集材技術の研修を開催するなど、自伐林業の推進に取り組んでおり、市民団体はその研修を受けた方の練習の場にもなっています。チェーンソーの扱い方を学んでも、一人ですぐに伐倒作業ができるわけではないので、これから森林を整備していきたい方は、団体の活動に参加することにより作業の経験を積むことができます。

林業素人の私がなぜ森林整備かという、元々田舎育ちだったこともありですが、自分で森づくりをしてみたいと思ったからです。日本の森林は荒廃していると言われていますが、ではどんな森林ならいいのか、荒廃している状態からあるべき森林はどうすればできるのか、林業素人の私には全く見当がつかず、



せんではないから自分で森づくりをしたい、単純にそう思ったのが森林整備をしようと思ったきっかけ

した。森が健全であれば水がきれいになる、災害も起きにくくなる、二酸化炭素が吸収される、木材は工業利用やエネルギー利用ができる、里山再生で有害鳥獣の被害が減るなど効果は多く、森林を健全にすることは、結果的にはとてもやりがいのある社会貢献なのだと思います。

実際、森林・林業に携わること

を始めるのと色々知りたくなり、森林・林業へは、生物学はもちろんだ、物理学、化学、土木、地質学、水理学、経営、関係法令など様々な分野からアプローチでき、それらの知識や木を伐る経験などが必要なのだとわかりました。これだけ勉強していればいいということではなく、幅広い知識を習得し、それらの知識を元に総合的に判断しなければならぬ森づくりは、難しいけどいろいろな考え方があるところがおもしろいと思います。(結論がすぐに出ないのでモヤモヤすることも多いですが)

難しいながらも素人なりに考えて森林整備の活動をしているのですが、間伐を行い、近くに道のない山から搬出し出荷しても、実際

(活動費)にはなりません。間伐遅れの山から切り出した木は、手間をかけて保育したわけではないので、用材として使えない場合が多いです。仮に良い材だったとしても木材市場まで持っていくにしても、大型車でまとめて運ばない限り、遠い市場までは燃料費がかかり採算が合いません。だから「補助金」が必要。これが林業の実情なのだとつくづく感じます。

だからといって森林を放置しておくわけにはいかならないのですが、森林で作業をする人が少ないです。ここ何年かは林業ブームで若い方の林業事業体への就業が増えているみたいですが、元々の就業人数が少ないのでまだまだ人員不足なのだと思います。(即戦力になる人もなかなかいないでしょう)

そもそも人口が減って、働くことができる人の絶対数が減る中で人員の確保はどの業界でも難しくなっているのが現状なので、動ける人が森を健全に保つようにするしかなく、林業事業体へ就職してプロになる、自伐林家になる(専業・副業)、市民団体で活動するなど、どんな形でもいいから一人でも多く森林・林業に携わる人が増えてほしいと思いますし、微力ながらそのお手伝い

できればと思っています。

最後に、ありきたりの内容ですが、林業素人の私が森林整備の活動を通して思ったことを書いておきます。

何で森林の境界が明確になっていないの？

もう何年も前から言われていることだと思えます。そのため地籍調査をしていますが、森林の管理をするにも手放すにも必ず境界が明確になっているか必ず確認します。まずは境界と森林所有者をはっきりさせ、長期的に正確な管理ができるやうに確立することに行政は力を注ぎましょう！

山林は手放せないの？

「就職で都会に出て、親が亡くなり森林を相続した。」「もう地元に戻る予定もなく帰ってもいい。」「森林がどこにあるかも全くわからな

い。」「ただ相続しただけ。」「山林に関わる意思がない、山林が負の遺産のように重荷になってる方に税金を払う以外に何を期待するのでしょうか。小規模面積の山林は手放しやすくし、それを集約化して管理できる人に引き継ぎやすくするなど、新たな制度づくりや手続きの簡素化をしていただきたいです。何もしない、何もできないと放置されて荒廃する方が多いのでは？空き家

問題と同じかもしれません。何でも安けりゃいいの？

利益を上げるのが目的の民間企業。利益を確保するために売上が上がらなければ人件費を削る、安い原料に替えるなど原価を抑えて利益を確保するのは基本的な考え方です。利益が確保できないければ輸入しても安い原料に替える。そんなことばかりしていたら国内の一次産業は成り立たないと思えます。

林業の仕事はやっぱりキツイ？

働く人の絶対数が減っているのだから林業ブームとはいえない林業従事者が思うように増えないことは仕方がないと思えます。そこで介護業界で期待されているロボットのように、人工知能を持った林業ロボットができたら。技術大国ニッポンなら近い将来できるかも？

森林は資源のない日本で調達できる数少ない貴重な資源です。しかも石油資源のように枯渇せず、きちんと管理すれば用途に応じた形態で供給し続けることができ、様々な副産物も生み、私たちの心や生活を潤してくれま

す。これからも微力ながらも活動を継続して地元の森林をみんなできつくりあげていきたいと思えます。

リレー通信

「新潟に杉と男は育たない」らしいけど 杉もあるし 男もいる。 西澤 卓也

新潟県長岡市は、平成の大合併で海から山まで抱える巨大な市。その中で、私の暮らす集落は山地の谷あいにあります。当たり前前に、山がそこにある暮らしをしてきました。ただ、私の山との関わりは、年に一度、集落のお祭りの山車に飾る松を伐りに山へ入るくらいでした。



私が、山へ関心を抱いたのは、とある集落の農家のおっさんがポツリと放った「雨がちよつと強く振ると、すぐ用水に土砂が流れこんじまう。山をぶちやっつたからなのかもなあ」という一言がきっかけでした。新潟県長岡市は、2004年に発生した中越大震災で、中山間地域を中心に大きな被害を受けた地域です。また、全国有数の豪雪地で地すべり地帯です。地震で緩んだ土地は、雪・雨の影響で、毎年少しずつ、崩れま

た棚田や用水路があります。先祖が切り開き、守り続けてきた山・田んぼ・水路。どれも、村の暮らしに不可欠なもので、どれかが欠けると何かしら不都合が出てしまいます。田んぼ・水路は、農事組合法人を設立したり、農地集積を意図的に作って家にな欲的農家に作らつても集落の仕組みを創

意工夫をしながら、どうにか守っています。しかし、山はどうでしょう。私の知る限り、山の管理をやっているのはほんの一握りの、好き者な親父か、薪ストーブユーザーだけで、ほとんどの山は、蕪だらけ。しっかりと管理されている杉林を初めて見た時、改めて自分の地域の山がどれだけ手付かずなのかを知りました。

もう一つ、山へ興味を持つたきっかけが、移住した若者から、「家を買ったら、山もついてきた。けど、どこにあるのか、どうしたら良いのかわかんない」と相談を受けたことからです。これをきつかに、地元森林組合や行政職員とつながりが生まれ、山探しから木材の活用などを検討する仲間たちができました。森の見かた、森の歴史、森の可能性、初めて知ることばかりで、とても楽しいものでした。一方で、知れば知るほど、山との関わりをつくる

ことが、非常に難しいものなんだと感じました。直接的に収入を得にくく、管理も何をどうしたら良いのかよくわからない、未知の仕事が山仕事。近くて、遠い存在。この存在を、もっと知りたい、もっと近くのモノにしたいと思って、KOA森林塾の門を叩きました。

山仕事の基本の“き”を、体験も交えて学べる森林塾は、荒れ果てている里山を変えていく可能性があるように感じます。地域の暮らしの中で、山は近くて遠い存在になつていくように思います。かつては、地域の暮らしには絶対必要な存在だった里山。山からの恵みをフルに活かしたムラビトの技術や知恵

の山との関わりと、関心でした。昨年、地元森林組合と行政職員の方々から協力いただき、「森の楽校」という林業の体験会を開催しました。その時は、20〜30年生程度の杉林の間伐を行いました。今回、森林塾で初めてそれなりに大きい木の伐倒を体験しました。そこで思ったことは、単純に「伐るの、すげえ楽しい！」という感覚でした。このところ、仕事もうまく行かず、これから先どうしていこうか、自分がやりたいことは何なのか、不安に包まれていました。そんな状態で、受講した森林塾は、山の魅力をさらに高めてくれるものでした。

は、今、触れ合ってみると本当に魅力的で、ただただ感心するばかりです。「山を使う」ということを今一度見直して、魅力あふれる山の仕事に関わるきっかけの場として、森林塾を長岡でも開校したいと思ひ、仲間たちと準備を進めています。森林塾のような山仕事の技術を学ぶ場に加え、かつての里山の暮らしを感じられるような、70代の人たちが子供の頃にやっていた作業や遊びも体験できるような、レクリエーションも含めた森林塾を目指しています。さらに欲を言えば、どこに間伐材や雑木などを少しでもお金に変える術も考えられたらいいなあと思っています。

夢ばかり見ていても、いつまでも実現しません。一つひとつ、少しずつでも実践を重ね、楽しみながら、じっくりと山と向き合っていきたいと思ひます。まずは、自分の家の山の管理を始めて、出来ることを少しでも増やしていきたいです。

最後に、今回の研修でお世話になつた先生方、一緒に受講した皆様方のおかげで、非常に充実した楽しい3日間を過ごすことができました。この場を借りて、感謝申し上げます。いつの日か、もりもり団としてまた一緒に木を伐りましょう！

最後になりました。9月に入って全国的に台風と秋雨前線の猛威にさらされていて、梅雨時以上に雨がぱつかりで出かけられず腐っています。スポーツの秋はしばらくはお預けで、読書の秋、食欲の秋ですね。

伊那市界隈、そろそろキノコが出始めましたが、気温が高いので、こちらもすぐ腐り始めています。天高く、馬肥ゆる秋晴れの日はいつやってくる？

おわりに



2015年に開催された「森の楽校@長岡市小国」

投稿大歓迎。ご意見、ご質問は事務局まで
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

